

大津市・ヴェルツブルグ市姉妹都市提携30周年記念
日独市民スポーツ・シンポジウム報告書

長瀬 整司¹⁾ 金田 安正¹⁾ 新宅 幸憲¹⁾

(びわこ成蹊スポーツ大学・地域スポーツコース・国際交流委員会メンバー)

Zum Anlass der 30 jährigen Abschließung der Partnerschaft zwischen den
Städten Otsu und Würzburg

Ein Bericht von dem Symposium über Breitensport der beiden Städten

Seiji NAGASE Yasumasa KANEDA Yukinori SHINTAKU

Einleitung

Zum Andenken der 30 jährigen Abschließung der Partnerschaft zwischen den beiden Städten OTSU und WÜRZBURG wurde ein Symposium zum Zweck der Förderung für Breitensport sowie Aktivitäten des sportlichen Austausches ausgeführt.

Dies Projekt bezieht sich im Rahmen des Abkommens der Kooperation zwischen der Stadt OTSU und der BIWAKO Seikei Sporthochschule, das seit dem Jahr 2006 fortgesetzt ist.

Im diesem Bericht sind die bisherige Abläufe des Austausches und das Programm des Symposiums von Bürgern der Würzburg, Otsu so wie Studenten der Sporthochschule über die ausgetauschten Aktivitäten behandelt.

Schlüsselwörter : Breitensport, Austausch, Jugendsportaustausch zwischen Japan und
Deutschland

キーワード : 市民スポーツ, 相互交流, 日独青少年スポーツ交流

1) 生涯スポーツ学科

1. はじめに

大津市・ヴェルツブルグ市姉妹都市提携30周年の記念行事として、両市のスポーツによる相互交流の振興と日独における市民スポーツの現状から将来的展望を探ることを目的に、びわこ成蹊スポーツ大学国際交流委員会を中心となり標記のシンポジウムを開催した。

2006年、びわこ成蹊スポーツ大学は大津市とまちづくりに関する「相互協力協定」を締結しており、この事業はその一環での取り組みである。

ここでは、交流に至った経緯や交流プログラムをはじめ、シンポジウムの概要を報告する。

2. 大津市とヴェルツブルグ市との交流について

2.1 ヴェルツブルグ市の紹介

ヴェルツブルグ市は、バイエルン州ウンターフランケン地方の郡行政独立都市であり、人口はおよそ13万5千人である。ドイツ中央部南方に位置し、水・陸・空交通の要所である。都市中心をメイン河が流れ、その畔にロマンチック街道の起点となるマリーエンブルグ要塞がそびえる観光都市である。町の中心部にはユネスコ世界遺産であるレジデンス(宮殿)は、ドイツのバロックおよびロココ建築を代表するノイマン (Johann Balthasar Neumann) が設計した建造物として有名である。

初代ノーベル賞を受賞したレントゲンは、ヴェルツブルグ大学で学んだ。また、江戸時代、西洋医学(蘭学)を日本に紹介したシーボルトも同大学の出身である。ヴェルツブルグ市のセンターにあるシーボルト博物館には、当時の日本や西洋医学の状況を開示する資料として、シーボルトの遺品や業績の数々が展示してある。

ヴェルツブルグ市は、フランケン地方のぶ

どうの集積地であり、農産物が盛んである。名産物にはフランケンワインがあり、ライン、モーゼルワインと共にドイツの3大ワインの一つである。

スポーツでは、男子水球チームが有名で過去5回ドイツチャンピオンに輝いている。卓球、柔術、ローンラッド体操、マラソン競技などに、顕著な成績がある。

2.2 両市の交流の経過

ヴェルツブルク市と大津市は、ヴェルツブルク市が生んだ詩人マクス・ダウテンダイの名作「琵琶湖八景」が縁となり、昭和54年(1979年)に姉妹都市を提携して以来、市民交流を中心とした友好関係が築かれている。

3. 本学との相互交流までの経緯

3.1 ヴェルツブルグ市訪問

2008年9月、本学の長瀬ゼミでは、ドイツにおける市民スポーツの実態を把握することを目的とした「ドイツ研修旅行」を企画、実施した。その際、長瀬らは大津市長からヴェルツブルグ市長宛の親書を託され、大津市民を代表して友好親善を深めるメッセージを伝えた。また、参加した6名の学生たちは、ドイツ人が日常生活にどのようにスポーツ活動に取り込んでいるかを実際に学ぶため、5泊6日にわたり各種スポーツクラブの会員宅にホームステイした。(資料1, 2参照)

3.2 大津市市制110周年記念

2008年9月、大津市市制110周年記念の式典に、大津市と姉妹都市を提携している3都市が参列した。それらは、中華人民共和国の牡丹江市、スイス連邦共和国のインターラーケン市およびドイツ連邦共和国のヴェルツブルグ市である。

これら3都市の訪問団は、大津市に在住する大学として、びわこ成蹊スポーツ大学を訪問した。特に、ヴェルツブルグ市の訪問団は、本学の学生たちが研修旅行で当市を訪問

した2週間後の出来事であり、ローゼンタール市長を団長とする訪問団と学生との間で、当市滞在中の感想や意見の交換が行われた。その際、ローゼンタール市長は飯田学長に本学とヴェルツブルグ市のスポーツ相互交流の推進を提言した。

3.3 相互交流プログラム

前述の各種交流を契機として、ヴェルツブルグ市民スポーツ訪問団が2009年9月2日から6日まで大津市を訪れ、本学との相互交流が実現した。この訪問団は、ヴェルツブルグ市スポーツ諮問委員会委員のC. ホフマンを団長とし、昨年学生たちにホームステイを提供した家族やスポーツクラブ関係者たち8名で構成され、大阪成蹊学園・びわこセミナーハウスに滞在した。(資料6参照)

9月3日、ホフマン団長一行は大津市長を表敬訪問し、ヴェルツブルグ市長からのメッセージとともに親書を手渡し、友好的に会談をした。(資料4参照)。

午後から、比叡山の麓にある大津市指定文化財である竹林院において、茶会、琴の演奏会、精進料理を食するなど、日本文化に触れる機会を設けた。この交流プログラムは、かつてヴェルツブルグ市を訪問し、日本文化としての茶道をとおり交流を深めた茶道の「むつみ会」(代表・原地美千代氏)からの提案であり、市民相互交流の一環として大きな役割を果たした。

9月4日、本学学生たちが大津市の名勝石山寺、延暦寺や京都市内を案内した後、スポーツによる交流の機会を設けた。宿泊地である琵琶湖沿岸にある大阪成蹊学園・びわこセミナーハウス周辺でのカヌーツアーを実施し、琵琶湖の自然環境や比良山系の景観を紹介することができた。水辺実習で習得したカヌー技術を駆使し案内役を務めた本学の学生たちは、訪問客と二人乗りのカヌーに分乗し、和気あいあいと交流を深めた。

さらに、高島市にある近江最古の大社白鬚

神社を訪れ、古典的な神事を見学し湖国の伝統文化も紹介できた。

9月5日、訪問団は本学の施設見学の後、飯田学長を表敬訪問した。そこでは、将来的な相互交流に関する建設的な意見が交換された。飯田学長は、本学とヴェルツブルグ市とのスポーツ交流の推進を提言した。それを受け、ホフマン団長はヴェルツブルグ市とヴェルツブルグ大学が参画して、本学の教員と学生との人的、学術的交流を推進すると回答した。

シンポジウム終了後、ヴェルツブルグ市が平成10年大津市市制100周年を記念して、琵琶湖畔のなぎさ公園に建設した「ヴェルツブルグハウス」において、大津市日独協会主催の昼食会が開かれ、協会関係者と友好的な交流が行われた。

夕方、宿泊先でシンポジウムのパネリスト、学生、大津市職員などを交え、「さよならパーティ」が開かれた。

4. シンポジウムの開催

4.1 シンポジウム

名称：大津市・ヴェルツブルグ市姉妹都市提携30周年記念 日独市民スポーツ・シンポジウム

主催：びわこ成蹊スポーツ大学・国際交流委員会

後援：大津市および大津市教育委員会

日時：2009年9月5日(土)、10:30~12:30

場所：びわこ成蹊スポーツ大学・大講義室

聴講者は、本学学生、卒業生、本学教員、大津市民(主婦、学校教員、協会関係者、市職員、指導員、会社員=アンケート調査から)等、約70名であった。

4.2 講演の概要

4.2.1 「ドイツ市民スポーツの現状と展望」

演者：クリストフ・ホフマン(ヴェルツブルグ市スポーツ諮問委員会委員)

演者は、パート1では「ヴェルツブルグ市

に関わる州および地方自治体のスポーツ振興行政」およびパート2では「市民社会とスポーツの発展」について講演した。

(注) 演者の経歴(資料5)と講演の全文(資料6)は、資料編に掲載する。

4.2.2 「日独スポーツ少年団同時交流の歴史と意義」

演者：徳地 正行(甲賀市スポーツ少年団代表)

演者は、甲賀市スポーツ少年団を代表して、日独スポーツ少年団同時交流事業がスタートした1976年以来、滋賀県を代表してドイツスポーツ少年団を甲賀市に受け入れてきた。また、代表指導員としてドイツに赴き研修を積んだ経験の持ち主である。

講演では、日独スポーツ少年団同時交流の歴史と甲賀市民との交流の状況を紹介し、この国際交流事業の有効性と重要性を述べた。この事業に参加する青少年たちのスポーツ活動やステイ体験で培う友情の絆は、異文化交流の価値観の育成に多大な影響を及ぼすと結論付けた。

4.3 パネルディスカッション

両市の市民スポーツ交流事業の可能性と将来的展望を探るため、両市から3名ずつパネラーがそれぞれの活動を報告して、意見交換を行った。

4.3.1 ヴェルツブルグ市のパネラーの報告概要

4.3.1.1 R. ヴォルフ氏：ヴェルツブルグ・カヌースポーツクラブ理事長

演者は、ドイツ各種スポーツ協会の役割とスポーツクラブの運営との関係を自身が理事長を務めるカヌークラブを事例に報告した。

ドイツのスポーツクラブは公共団体であり、施設の衛生設備を充実させ、管理の効率化と運営の低コスト化の改善を図ることは、市民が安全で快適にそして安価なコストでス

ポーツを楽しめる環境作りとなる。

ドイツ社会は、経済性を優先する政策を支持してきたことにより、河川や湖沼の環境破壊を招いた。カヌースポーツは自然との融和が大切である。カヌースポーツへの青少年参加は、環境問題に対する意識を高める教育的な価値があり、それは地球規模での環境破壊の阻止と改善への期待が持てる。

4.3.1.2 I. バウゼワイン氏：バイエルン州・ヴェルツブルグ地区スポーツ少年団理事

演者は、バイエルン州スポーツ青少年団組織について組織の規模、運営および活動についての概要を報告した。それらは、国際的交流活動も包括しており、ヴェルツブルグ市における日独スポーツ少年団同時交流の報告もされた。

4.3.1.3 T. ビーバー氏：ヴェルツブルグ市スポーツ教員養成監督官

演者は、ドイツの学校教育におけるスポーツ科目の役割とスポーツ教育の達成目標について「個性を伸ばす」「社会教育の推進」「健康意識の改善」「生涯スポーツの振興」および「国際化の推進」をキーワードに、歴史のおよび社会的観点からの問題点を報告した。

4.3.2 大津市のパネラーと報告概要

4.3.2.1 井上 精一氏：大津市体育協会常任理事兼事務局長

演者は、大津市体育協会が企画する各種市民スポーツプログラムとその活動状況を多数の写真で紹介した。また、ヴェルツブルグ市民も参加できるスポーツ交流として、毎日マラソン(琵琶湖マラソン)に関する詳細な説明を行った。

4.3.2.2 新宅 幸憲氏：びわこ成蹊スポーツ大学地域コース教授

演者は、滋賀県健康づくり財団が主管す

る、健康運動カレッジ公開講座の指導者として、大津市民にびわこ湖畔にある史跡めぐりの・ウォーキング大会を企画、実施した。ここでは、マップ作り、大会運営およびその成果についてビジュアル資料をもとに報告された。また、日本の国技である相撲の原型を創ったといわれる、木戸清淋についても言及した。

4.3.2.3 高橋 武氏：大津市瀬田学区体育協会会長

演者は、日独スポーツ少年団同時交流の指導者として、この事業の創設期から関わってきた。演者自身がこれまでに参加した交流の状況を写真で示しながら解説し、日独市民スポーツ交流振興の重要性を述べた。

5. 質疑応答

5.1 ヴェルツブルグ市側

5.1.1 大津市体育協会が市民に提供するプログラムには武道系スポーツ種目を見受けない。ドイツでは、日本の柔道や空手が人気種目として盛んに行われているが、日本では武道は人気がないのか？

回答：日本の文科省は、日本の教育現場で伝統文化を実践するため、学校体育に武道を必須科目として課している。地域スポーツクラブでも剣道場や柔道場はサッカーや野球に押され人口は減少しているが、活発に活動している。

5.1.2 琵琶湖マラソンにヴェルツブルグ市民と共に参加したい。参加標準タイムは設けているのか？

回答：競技部門ではそれを設けるが、誰もが参加できる市民マラソンレースでは設けない。参加者が個人の能力に合ったレースを選択できるプログラムを準備する予定にしている。

5.2 大津市側

5.2.1 サッカーを国技とするドイツでは、ドイツサッカー連盟が連邦レベルでキッズサッカープログラムを提供しているのか？

回答：連邦レベルでは行われていない、州レベルの取り組みはある。たとえば、バイエルン州サッカー協会にはドイツ最大のサッカークラブ「バイエルン・ミュンヘン」が所属しており、そこではキッズプログラムを提供している。その内容は、子どもたちが一流プレイヤーから直接指導を受けるプログラムを準備し、多くの子どもたちを集めるキャンペーン活動である。

5.3 聴講者の感想（自由記述）

- 両市の交流活動を実際に聴講し、大変ためになった。
- 資料（説明・配布）が充実しており、よく理解できた。
- このような交流を積極的に展開し、市民レベルでの相互交流の発展を願う。
- 小松・木戸学区の体協役員にもっと参加してほしかった。
- 大津市とドイツ間には、スポーツに関わる長い歴史があり驚いた。
- 日独ともに市民スポーツに関わる同様の問題を抱えていることが分かった。
- ドイツでは、学校が半日から全日制に変わり、学校スポーツに弊害が出ていることを杞憂していることが理解できた。
- アカデミックな内容で良かった。
- スポーツ交流に我々の茶道も取り入れてもらいたい。我々は、茶道でヴェルツブルグ市を3-4回訪問した。通訳のバーバラさんは、我々の会のメンバーである。
- ドイツのスポーツ事情がよく分かり、有益であった。
- 子どもの運動不足は、日本だけではなくドイツでも深刻な問題だとは知らず、驚いた。ドイツに限らず、海外に少し興味

がわいた。

- 地域スポーツが盛んであるドイツでも、少子化と学校では生徒のスポーツ離れが起きている報告を聞いて驚いたが、その対策がとても興味深い。
- ドイツのスポーツ行政が地域スポーツと市民スポーツへの支援を積極的に行っていることに改めて驚いた。また、ドイツ人の市民スポーツに対する意識の高さを感じた。

6. まとめ

大津市とヴェルツブルグ市の姉妹都市提携30周年記念に開催したシンポジウムから、本学が大津市とヴェルツブルグ市をスポーツで結ぶ拠点として積極的な交流事業の推進が期待されている。

古きよき友である日独国民の友好関係を止揚するには、スポーツ交流だけに留まらず多角的な交流による相互理解と友好親善を深める事業の推進が不可欠である。特に、次世代を担う青少年たちに市民レベルでのスポーツ、文化、芸術分野における交流の推進は、両国にとり将来の財産となり得る重要なプロジェクトである。

7. 謝辞

今回の相互交流とシンポジウム開催にあたり、本学飯田稔学長の物心両面からの支援に感謝したい。飯田学長の提言は、本学を発信地とする両市の将来的な国際交流事業の推進に大きなインパクトを与えた。

パネラーとして登壇戴いた、大津市体育協会井上精一事務局長、瀬田学区体育協会高橋武会長、甲賀市スポーツ少年団徳地正行代表そして本学地域スポーツコース新宅幸憲教授には、ご多忙中にもかかわらず大津市および滋賀県の市民スポーツに関する貴重な報告を戴いた。

大津市市民国際文化交流課中江英樹係長には、後援へのご配慮と大津市長表敬訪問の実

現に多大ご協力を戴いた。

大津市坂本にある茶道「むつみ会」の原地美千代代表には、訪問団が日本文化に触れる貴重な機会を設けて戴き、文化交流が実現したことは意義深い。

大津市日独協会清水耕二理事長にはヴェルツブルグハウスにて昼食会を催して戴き、両市民の友好的な交流に花を添えることができた。

ここに関係各位および参加した長瀬ゼミ所属の学生に謹んで深謝する。

<資料編>

本文中の資料は、以下の6資料にて参照できる。

資料1. <2008年8月26日付け、中日新聞>



資料2. <2008年9月5日付け、ヴェルツブルグ新聞>



<翻訳>

日本からのスポーツ学生の訪問

ヴェルツブルグ市の姉妹都市である大津市より6名の学生が、当市にゲストとして数日間滞在します。ハンス・ヴェェナー・ローヴ

エSPD議員団委員長（後列左3人目）は、当市庁舎のヴェンツェルホールにおき、この学生グループと引率の長瀬整司教授に歓迎の辞を述べました。その席上、かつてケルンスポーツ大学の学生であった長瀬教授は、ローゼンタール市長に宛てた大津市市長の親書をローヴェ委員長に手渡し、大津市が市制110周年記念を迎えるに当たり、ヴェルツブルグ市のスポーツ学生グループを招待したいとスピーチされました。

この学生グループは、日独のスポーツ比較（女性スポーツ比較など）を研修するためゼミ旅行を実施したのです。バイエルン州ヴェルツブルグ市スポーツ青少年協会委員長であるクリストフ・ホフマン氏（後列左4人目）は、大津市のゲストのため交流プログラムを企画されました。彼は、ゲストにはシティーマラソンや異国情緒溢れるローンラッド競技にチャレンジできる機会を提供したいと語っています。日本人のステイ・マザーのタマラ・ビーバーさんは、礼儀正しくオープンマインドで友好的な好青年ばかりですと、賞賛されています。

こうして、両友好都市の恒久的な交流プログラムの礎は築かれました。

資料3. <2009年9月4日付け、京都新聞>



資料4. クリストフ・ホフマン氏の経歴
職業と役職：

- 学校教師（小・中・高）、担当科目（ドイツ語、体育、地理）
- 重度障害者スポーツ指導員養成教官

- ヴェルツブルグ市スポーツ諮問委員会メンバー

指導業績：

- 1986年から1999年まで青少年スポーツ指導員
- 1984年から現在に至り、ドイツ・スキー連盟公認指導員
- 2001年以来、VSVヴェルツブルグ・スポーツクラブ理事長

競技業績：

- 28歳から長距離ランナーに転身、マラソン大会出場、自己ベストタイム（2時間32分）
- 44歳からウルトラマラソンランナーに転身し、ヨーロッパカップ・団体優勝2回、ヨーロッパカップ50歳以上の部で3回優勝、ヨーロッパ100Kmマスターズ（40歳以上の部）第2位、など国際的な大会で優秀な成績を挙げている。

著書：

- 「ヴェルツブルグを走ろう！」
- 「ヴェルツブルグ・ジョギングコース・ガイドブック」
- 「ランニングAからZまで」

資料5. ホフマン氏の講演全文

演題：「ドイツ市民スポーツの現状と展望」

パート1：ヴェルツブルグ市に関わる州および地方自治体のスポーツ振興行政

1 バイエルン州スポーツ協会のスポーツ振興行政

バイエルン州スポーツ協会は、11,800スポーツクラブに登録する420万人の会員を支援しています。スポーツクラブの中でも、1,500名以上の登録会員を有するクラブを「大型スポーツクラブ」と称しており、その数は360団体に及びます。一方、大部分のスポーツクラブは、300名以下の小規模クラブであり、当協会には7,500団体が登録しています。それらのスポーツクラブでは、州スポーツ協会が養

成した約80,000人の公認スポーツ指導員が、100のスポーツ種目の指導に携わりながら、バイエルン州住民の健康の維持と増進を支援しているのです。

1.1 スポーツ施設建築に対する助成金

新しいスポーツ施設を建設する場合、その建設経費全体の3分の1ずつを州スポーツ協会とヴェルツブルグ市が助成し、当該スポーツクラブは残り3分の1の経費を自己資金で負担します。

1.2 スポーツ指導員およびスポーツクラブ経営に対する助成金

これまでの補助金制度では、それぞれのスポーツ活動毎の精算方式で給付されていましたが、2年前スポーツクラブ運営に新たな「年間概算経費一括給付金制度」が導入されました。スポーツクラブは、これまで経費に係わる消耗的な管理システムと膨大な労力を要する精算作業を廃止し、簡素化された新制度で運営することになったのです。

それは、ポイント制による「一括給付金制度」であり、ポイントの総計により助成金が支給されるのです。成人クラブ会員1名につき1ポイント、新生児から26歳までの青少年会員には10ポイントそして公認スポーツ指導員は1名につき650ポイントが積算され、その総計で年間助成金額が決定、給付されるシステムです。

ポイントの評価額は、バイエルン州の各年度歳出額に比例連動しています。たとえば、2009年度のポイント評価額は、0.27ユーロ（約35円、1ユーロ=135円での換算）です。

1.3 「スポーツによる社会奉仕イヤー」

州スポーツ協会は、2年来いわゆる「スポーツによる社会奉仕イヤー」と称する、若人を起用するキャンペーン活動を推進しています。それは、公認スポーツ指導者の奉仕活動（38時間／週）により恩恵を受けるスポーツ

クラブは、奉仕指導者の所属クラブに月額約250ユーロ（約30,400円、1ユーロ=135円での換算）を支給する制度です。

現在、バイエルン州全域の300スポーツクラブから公募があり、特に若い女性指導者がそのキャンペーンに従事しています。女性が多い理由は、若い男性指導者は徴兵および非軍事役務の適齢期にあるからです。

1.4 午後1時からのスポーツ

スポーツクラブが給付金を受けるその他の事業に、いわゆる「午後1時からのスポーツ」と称される、学校のスポーツ授業をサポートする制度があります。そこでは、学校授業にはないスポーツ種目を提供することが原則であり、クラブの公認指導者が学校に赴き生徒たちを直接指導します。たとえば、私たちのクラブはある学校と協同して「トライアスロンとドゥアトロン」のスポーツ種目を提供しています。そこには、授業で使用するマウンテン・バイク18台が用意されており、その物品購入費は、州スポーツ協会が支給してくれました。

同様に、幼稚園とスポーツクラブは多様な協同事業を推進しています。

バイエルン州議会は、これらの事業費に掛かる2009年度予算として、2000万ユーロ（約27億円、1ユーロ=135円での換算）を計上しています。

註. トライアスロン=マラソン+水泳+サイクリング

ドゥアトロン=マラソン+サイクリング

2 地方自治体のスポーツ関連推進事業（ヴェルツブルグ市）

2.1 新しいスポーツ施設建設に対する助成

前述のとおり、ヴェルツブルグ市は新設されるスポーツ施設に対して総額の1/3を助成します。

2.2 スポーツ指導員とスポーツクラブ運営に対する助成

当市は、バイエルン州スポーツ協会のポイント制度を活用しています。

当市と州協会の運営方式の明らかな違いは、青少年スポーツをより促進するため、州協会の10ポイントに対し、当市は25ポイントを与えて奨励しているところです。

2.3 青少年育成に対する追加的な重点事項

青少年クラブ会員の増員対策の助成金奨励制度があります。それは、青少年会員数が会員総数の15%以上に達するとボーナスが支給されるのです。

さらに、その数値が30%に達した場合は、「特別ボーナス」が支給されます。

青少年向けの大会・リーグ戦などの遠征・参加費用は、成人向けよりも増額して支給されています。

両親が失業手当受給者の場合、クラブがその子どもの会費を負担する制度もあります。(貧困度IVレベルの失業保険受給者を対象)

2.4 ヴェルツブルグ市スポーツ諮問委員会が関わるスポーツクラブ助成金

スポーツクラブは、施設関連の助成金を市に申請することができます。ヴェルツブルグ市はその必要総額の60%までを認可し支給します。当市はその歳出額として、40万ユーロ(約5400万円、1ユーロ=135円での換算)を計上しています。

スポーツクラブに緊急事態が発生するケース(雨漏り、シャワーの故障など)に備え、いわゆる「火災時の壺」(炊き出し支援)と呼ばれる補助金制度もあります。この場合、修理費の60%までを支援することになっています。その歳出額は、105,400ユーロ(約1430万円、1ユーロ=135円での換算)です。

さらに、設備費用の補助金には「エネルギー削減対策支援」も含まれます。たとえば、それは壁や屋根に保温材およびソーラ設備の

取り付け工事費用などを指し、工事費総額の40%までを支援しています。

「経済的スポーツ支援対策」に関する予算は、当然のことですが市の財政事情に合わせて変動します。現在、その支援に対する予算額が約120万ユーロ(約1億6200万円、換算レート135円)であるのに対し、文化事業支援予算は1700万ユーロ(約23億円、換算レート135円)となっています。それは、スポーツ支援計上額の約14倍です。

パート2：市民社会とスポーツの発展

1 スポーツクラブが取り組むべき、将来的な課題と領域

ドイツ人は：

- 「減少している」
- 「高齢化している」
- 「多民族化している」
- 「女性優位社会に変化している」
- 「肥満化している」

取り組み、その1

- スポーツクラブを取り巻く環境と人口動向の正確な分析の必要性

ドイツの人口動向の統計的な推移から分析すれば、2050年には現在よりも1千2百万人減少する見込みです。

現在、ドイツの公共スポーツクラブへの登録者数は、国民全体の50%を占め、4100万人ですが、2050年には3500万人にまで減少すると予想されます。特に、子どもと青少年のクラブ会員数は、現在の20%から13%にまで落ち込むと考えられています。そうした状況になれば、たとえば少年サッカーでは年齢別チーム対抗リーグ戦の大会運営はできなくなる恐れがあるのです。

取り組み、その2

スポーツクラブは、子どもの運動と身体の発達レベルに合わせた、適切な指導による早

期運動学習を支援します。

- 小学校入学児童の12.5%が肥満であり、小学4年生ではそれが25%に増えています。
 - 児童の20%が、日常生活で不器用な行動、つまり「運動不全」に陥っています。
 - 50%の子どもが、姿勢虚弱、運動不全と協応能失調などの悩みを持っています。
- したがって、このような状況が続けば、25年後の子どもの運動総合能力は、さらに10%低下すると考えられます。

取り組み、その3

- 移住民の子どもと青少年への集中的な呼びかけと教育指導の必要性

ドイツでは多民族化が進んでいます。たとえば、現在ドイツ生まれの子どもの約30%は、少なくとも両親の片方が移住民なのです。

2050年には、30歳以下の全ドイツ人の半数はドイツ語圏外の出身者と占められると予想されます。

取り組み、その4

- スポーツクラブの全日指導体制の整備
- 学校スポーツの授業時間は、過去に週4時間から2時間に減少された経緯があります。その制度は、時とともに幾度も改正されてきました。現在は、小学校の体育授業は週3時間実施されています。

学校運営は、これまでの半日制から全日制に変わりつつあり、かつてのように午後に生徒たちがスポーツクラブで活動する習慣はなくなりつつあります。

取り組み、その5

- スポーツクラブは高齢者会員に標的を絞り、会員の増員を図ることで。

ドイツは年々高齢化社会に向かっており、2002年生まれの人は、余命が女性で80.8歳、男性で74.8歳という調査結果がでています。

2050年に生まれる人の寿命は、女性が88.1歳、男性が82.6歳になると予想されます。

1970年以降生まれの女性の半数以上が、100歳以上に達するでしょう。

取り組み、その6

- 女性および男性スポーツの取り組みに必要な将来的観点からの配慮と構築策
- ドイツは、女性優位社会になりつつあります。

女性が占める人口比率は、益々高くなります。

寿命は、女性のほうがより長くなります。

女性は、多種多様な学習に対し、意欲が高いのです。

女性のスポーツ活動は、年齢とともに盛んになる傾向にあります。それに対し男性のスポーツ活動範囲は歳とともに狭くなります。女性の健康、フィットネス、持久力運動やウエルネスに対する意識は、ますます高くなる傾向にあります。

取り組み、その7

- 営利民間スポーツクラブとの協同事業
- 営利スポーツ団体は、公共スポーツクラブと同じ市民グループを標的にしています。

営利スポーツ団体は、健康志向関連種目の支援を強化しています。

営利スポーツ団体は、マーケティング活動をよりプロフェッショナルに展開しています。

営利団体は、公共スポーツクラブよりも「低額料金」で会員を募っています。

現代社会のスポーツ種目として「超ナウイ」と思われている活動は：

- 健康志向型スポーツ
- 持久性トレーニング
- フィットネス／ウエルネス
- チームスポーツ
- ダンス

― 若者好みのスポーツ

個人的にスポーツ活動を組織化する、あるいは営利スポーツ団体（フィットネスセンター）の活動プログラムに参加するドイツ市民が増加しています。

取り組み, その8

時の景気浮沈や経済不況に左右され、国のスポーツ振興が後退することを阻止することです。すなわち、スポーツクラブへの経済的支援とスポーツインフラ整備への経済的支援をさらに推進し、「威光ある目標」と「威光ある事業」を集中的に展開することです。

3 解決策

3.1 改革案

「スポーツによる統合」プログラムの開発

- ― 社会が注目するスポーツクラブ支援の強化
- ― スポーツグループの統合
- ― 「知性的なスポーツ」を担う、新しい指導員の養成

3.2 子どもの運動好きをステータス化する

「KISS」子どもスポーツ学校のモデル化を早期に実現化する

早期スポーツ英才教育ではなく、穏やかで多様な運動学習への取り組みからより長期的なスポーツ活動の継続性を喚起する。

3.3 「午後1時からのスポーツ」のモデル化

学校とスポーツクラブのコーポレーション：スポーツクラブが学校の全日制を活用し、午後からの授業に参加し生徒指導に当たりながら、着目を浴びているスポーツやチームスポーツ種目を提供する。

幼稚園とスポーツクラブのコーポレーション：スポーツ指導者が定期的に幼稚園を訪れ、あそびの要素を取り入れた運動とスポーツの基礎を指導する。

3.4 個人が組織するスポーツ団体と営利的とするスポーツクラブの拡大

- ― 「健康志向型スポーツ」と「栄養学」を融合した指導ができる指導員の養成。
- ― 幼稚園の「小熊さん」プロジェクトへの参画
 - ― 従来の運動指導オンリーではなく、健康志向型の栄養問題にまで指導知識の範囲を拡大する。
- ― スポーツクラブに独自のフィットネススタジオを設ける。このような取り組みが新入会員の増員に繋がるがっていることは、すでに証明されている。「フィットネスセンター」とコーポレーションの促進。

3.5 高齢者スポーツ

- ― 「高齢者スポーツ」の専門指導員養成
- ― 健康問題とスポーツとの関連性を探る
- ― 伝統的な身体活動である「体操とダンス」を様々なスポーツ種目にも拡大して提供することは、高齢者が個人々の好みに合ったスポーツ種目を継続して活動できることに繋がる。
- ― スポーツクラブを社会の運動施設として活用し、高齢者の孤独化を阻止する。

4 結論

スポーツクラブには将来性があります。

その理由として；

- ― 健康の増進に役立つ
- ― 異なった出自の人々が一緒に活動できる
- ― 有能感を体験する喜びを伝える
- ― 子どもと青少年に生きることの大切さを教える
- ― 家庭生活を豊かにする
- ― 高齢者に活力と社交性を提供する
- ― 市民にボランティア活動の機会をつくり、社会参加の扉を開く、などがあります。

資料6. ヴュルツブルグ市市民スポーツ訪問
団リスト

団長

C.ホフマン (Christoph Hoffmann: 学校スポーツ・地域スポーツ・スポーツ行政関連)
バイエルン州・ヴュルツブルグ地区スポーツ青少年団理事長
ヴュルツブルグ市スポーツ諮問委員会メンバー

団員

ヴォルフ夫妻 (Rudiger + Christine Wolf: 学校スポーツ関連)
TGハイディングスフェルト・カヌークラブ理事
学校スポーツ教員養成官, ヴュルツブルグ市教育委員会委員
ビーバー夫妻 (Theo + Tamara Bieber: 地域

スポーツ関連)

LGヴュルツブルグ・クラブ理事
現役長距離ランナー

ジンガー夫妻 (Peter + Linda Singer: 地域スポーツ関連)

TGヴュルツブルグスポーツクラブ理事
リヨンラッド体操クラブ代表 (Rohnrad
ドイツの伝統スポーツ)

I.バウゼワイン (Isabel Bausewein: スポーツ行政関連)

バイエルン州・ヴュルツブルグ地区スポーツ青少年団理事

通訳

B.ローホッフ (Barbara Lohoff: 専属通訳)
日本留学中, 大津市に4年在住
茶道「むつみの会」メンバー